

資 料

新型コロナウイルス感染（COVID-19） 拡大前後の看護学生就職情報の経年別推移 － COVID-19 の看護学実習への影響と 就職先選択の関係を検討－

Changes in Nursing Student Employment Information Before and
After the Spread of COVID-19 Infection by Management Year

-Examination of the Relationship Between the Influence of COVID-19
Infection on Nursing Practice and Employment Choice-

澤田みどり

Midori SAWADA

旭川大学保健福祉学部保健看護学科

I. はじめに

2020年1月以降、新型コロナウイルス感染（以下COVID-19とする）拡大は看護学実習を臨地実習から学内実習へと変更するという、教育に大きな影響を与え、臨地実習での学びや就職先の選択肢をも狭めるといった状況になった。文部科学省は厚生労働省と共に「新型コロナ感染症の発生に伴う医療関係職種などの各学校、養成所及び養成施設などの対応について（2020年2月28日）」⁶⁾の中で、「実習施設の受け入れの中止などにより実習施設などの確保や代替えが困難である場合、実状を踏まえ実習に代えて演習または学内実習などを実施することにより、必要な知識及び技能を修得することとして差し支えないこと」実習等の授業の弾力的な取り扱いについて周知した。結果、ほとんどの大学で臨地実習から学内実習やオンラインでの代替実習となった。旭川大学看護学科においてもCOVID-19の影響を受け看護学実習を臨地には赴かず、学内代替実習で終了する学習形態へと変更を余儀なくされた。幸いなことに当大学の2020年度卒業生（10期生）は、全員年度中に1か所以上の臨地実習を体験しており、実習時間や内容、実習場所の違いは多少あるものの、入院患者の環境や医療従事者の働く環境、看護業務の見学など、就職後の看護師業務の具体的なイメージを持つことができた。しかし、2021年度卒業生（11期生）からは臨地へ赴かず学内実習で完結

という看護学実習の形態になり、臨地で働く看護師たちや臨床の現場、病院施設を見ること、医療の現場を体感することもなく卒業しているのが現実である。そこで、COVID-19下で卒業した学年（11期生と12期生）の就職に関する情報と1期生から10期生までの就職状況を経年別に整理し、就職に関する項目毎の推移をまとめ検討し、今後の就職先選択の支援につながる基礎資料として活用することを目指す。

II. 目 的

本調査は、COVID-19下で卒業した11期生、12期生とそれ以前の1期生から10期生までの就職状況を経年別に整理し、就職に関する各項目の推移、変化の有無を明らかにすることを目的とした。

III. 用語の定義

旭川実習施設とは、旭川市内にあって臨地実習受け入れ病院、施設（200床以上）を指す。

IV. 調査方法

1. 対象：旭川大学看護学科1期生（2011）から12期生（2022）までの卒業及び卒業予定学生
2. データ収集方法：大学キャリア支援課所有の卒

業生就職情報から個人情報（氏名や学生番号）を除外したものをナンバリングし、就職施設先と地域区分などを表にし、単純集計した。

3. 調査項目：(1) 対象者数 (2) 道内外就職者数 (3) 旭川就職者数 (4) 道内で旭川以外の就職者数 (5) 札幌就職者数 (6) 旭川実習施設就職者数 (7) 旭川以外の実習施設就職者数 (8) その他就職を希望しないものや進学

者数、国家試験不合格者数

4. 倫理的配慮：大学キャリア支援課所有の卒業生就職情報から個人情報（氏名や学生番号など）を一切除外したものをナンバリングし、就職施設先と地域区分などを一覧表にし個人が特定されないようにしたものを使用。本研究以外に使用することはなく、研究後は資料の廃棄を約束。

表 1 対象者の就職に関する情報（数値）

	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生	11期生	12期生
	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
対象者数 (n)	47	18	61	64	51	56	43	66	54	42	56	52
道外就職者数 / n (On)	4 (8.3)	5 (27.7)	15 (24.5)	7 (10.9)	6 (11.7)	13 (23.2)	6 (13.9)	4 (6) (13.9)	8 (14.0)	0	2 (3.5)	3 (5.7)
道内就職者数 / n (In)	43 (89.6)	13 (72.2)	46 (75.4)	57 (89) (89.1)	45 (88.2)	43 (76.7)	37 (86.0)	62 (93.9)	46 (80.7)	42 (100)	54 (96.4)	49 (94.2)
旭川就職者数 / In (An)	22 (51.1)	5 (38.4)	22 (47.8)	26 (45.6)	15 (33.3)	15 (34.8)	14 (37.8)	27 (43.5)	23 (50) (50.0)	24 (57.1)	37 (68.5)	25 (51.0)
道内・旭川以外就職者数 / In (Aon)	21 (48.8)	8 (61.5)	24 (52.1)	31 (54.3)	30 (66.6)	28 (65.1)	22 (59.4)	35 (56.4)	23 (50) (50.0)	18 (42.8)	19 (35.1)	24 (48.9)
札幌市就職者数 / In (Sn)	10 (23.2)	3 (23.0)	17 (36.9)	18 (31.5)	19 (42.2)	12 (21.4)	13 (35.1)	15 (24.1)	12 (26.0)	13 (30.9)	9 (16.0)	11 (22.4)
旭川実習施設就職者数 / An	22 (100)	5 (100)	19 (86.3)	21 (80.7)	11 (73.3)	11 (73.3)	13 (92.8)	22 (81.4)	16 (69.5)	17 (70.8)	27 (72.9)	25 (100)
旭川以外の実習施設就職者数 (富良野協会・名寄市立 Hsp)	富良野 2 名寄 1	0	0	名寄 2	名寄 1	名寄 1	名寄 1 富良野 1	名寄 4	0	名寄 2	0	富良野 1 名寄 1
実習施設以外旭川就職者数 / An	0	0	3 (13.6)	5 (19.2)	4 (26.6)	4 (26.6)	1 (7.1)	5 (18.5)	7 (30.4)	6 (25) (25.0)	10 (27.0)	0
進学者数・就職しない数・ 不合格者数	希望 しない 1	希望しない 2 不合格 2・ 進学 1	進学 1 不合格 2	不合格 3	進学 1	希望しない 3 不合格 7・ 進学 2	不合格 5	不合格 5 進学 1	希望せず 1 進学 1・ 合格 1	希望せず 2 進学 2・ 不合格	不合格 2	進学 2

* 2020 年以降 COVID-19 に伴う看護学実習の影響（臨地実習中止から学内実習への変更）を受けた学年が 11 期生・12 期生

表 2 1 期生からの就職に関する各項目の推移

	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生	11期生	12期生
道外就職者数	8.3	27.7	24.5	10.9	11.7	23.2	13.9	6	14	0	3.5	5.7
道内就職者数	89.6	72.2	75.4	89	88.2	76.7	86	93.9	80.7	100	96.4	94.2
旭川就職者数	51.1	38.4	47.8	45.6	33.3	34.8	37.8	43.5	50	57.1	68.5	51
道内・旭川以外就職者数	48.8	61.5	52.1	54.3	66.6	65.1	59.4	56.4	50	42.8	35.1	48.9
札幌市就職者数	23.2	23	36.9	31.5	42.2	21.4	35.1	24.1	26	30.9	16	22.4

(%)

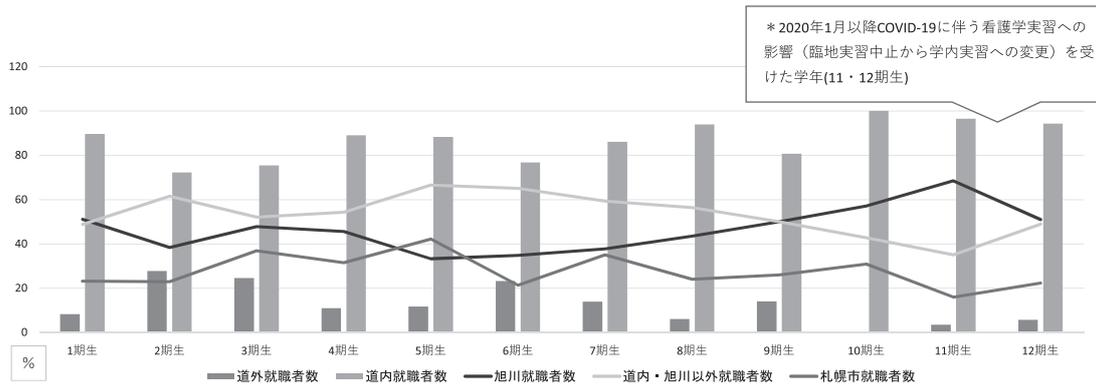


図1 1期生からの就職に関する各項目推移

表3 1期生からの道内・旭川就職者及び実習施設就職者の推移

	1期生	2期生	3期生	4期生	5期生	6期生	7期生	8期生	9期生	10期生	11期生	12期生
道内就職者数	89.6	72.2	75.4	89	88.2	76.7	86	93.9	80.7	100	96.4	94.2
旭川就職者数	51.1	38.4	47.8	45.6	33.3	34.8	37.8	43.5	50	57.1	68.5	51
旭川実習施設就職者数	100	100	86.3	80.7	73.3	73.3	92.8	81.4	69.5	70.8	72.9	100
実習施設以外旭川就職者数	0	0	13.6	19.2	26.6	26.6	7.1	18.5	30.4	25	27	0

(%)

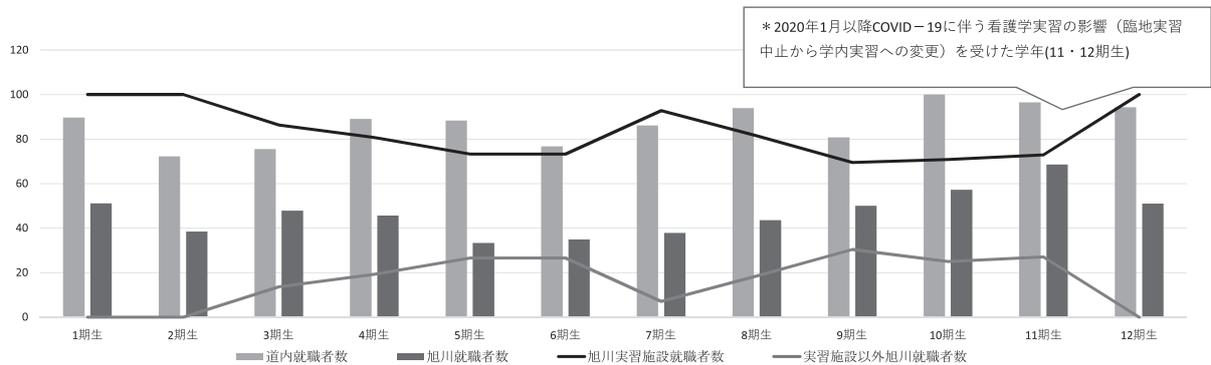


図2 1期生からの道内・旭川就職者及び実習施設就職者推移

V. 結 果

1. 旭川大学卒業生の就職状況は、1期生から12期生まで道内への就職が7～9割を占めている。
2. 道外就職者は、2期生から7期生及び9期生で1割以上から3割以下である。
3. 道外就職者は、1期生、8期生、10期生以後は、1割以下である。
4. 道内就職者で旭川就職者は、多少の変動はあるが約3割から6割を占めている。
5. 道内就職者で旭川以外に就職しているものは、3割以上6割を占めている。特に2期生から8期生

までは5割以上、7割弱のものが旭川以外の道内各地に就職している。

6. 道内就職者で旭川以外に就職しているものの中で、札幌就職者は約2割以上4割。特に3・4・5・7・10期生が3割から4割の者が札幌に就職している。
7. 道内就職者で旭川市就職者のうち実習施設への就職者は、7割から10割を占めており、ほとんどの期で7割以上の就職者数となっている。
8. 道内就職者で旭川就職者のうち実習施設以外の施設への就職者は、3・4・5・6期生8・9・10・11期生が約2割以上、約3割の就職者数となっている。

9. 11・12期生と1期生から10期生までの就職状況を見ると、11・12期生では道外への就職者数が減少傾向にある。道内への就職者数は9割を超え増加傾向にある。
10. 11・12期生では、道内就職者で旭川就職者の数に変化は見られない。また、札幌への就職者の数も増加していない。が、道内で旭川、札幌以外への就職者数が微増している。
11. 11・12期生では、旭川実習施設への就職者数が増加し、旭川の実習施設以外の施設への就職者数は減少している。

VI. 考 察

今回の調査結果では、旭川大学卒業生の就職状況は、道内就職者が多く、旭川就職者さらに、実習施設への就職者が多いことが明らかになった。これは1期生から12期生まで同様の結果となっている。COVID-19感染拡大前の2020年1月以前の先行研究によれば、

「看護学生の就職選択に与える影響要因」に、「実習病院での実習指導者からの指導や役割モデルの存在」(小葉他, 2018)³⁾、「実習での看護職のイメージの具体化や患者、指導者からの賞賛・承認による実習での成功体験」など(田辺他, 2019)⁴⁾が看護職志望の程度を高め就職先選定の要因となると述べている。これら、先行研究にある就職先選定要因は、10期生までの旭川大学学生の就職状況、調査結果とおおむね一致していると考えられる。旭川大学では、入学者の約9割以上が道内出身者であり、臨地実習での懇切丁寧な指導体制と指導内容や多くの先輩が就職し働いていることを知る、それら一つ一つが選択要因となり、実習施設への就職先選定へとつながっていると推察する。さらには、臨地実習を体験する中で、病院、施設での人間関係や雰囲気、先輩たちが居て院内教育体制が整っているなど、病院臨地実習、オリエンテーションの中での病院説明や見学、臨地実習の指導などを通して対面で病院職員の話しを聞き、体験することでこれまでの1期生から10期生までは就職先を決定していたのではないかと卒業生の漏れ聞く声から推察することができる。

しかし、2020年1月から始まったCOVID-19感染拡大により、医療施設および医療、看護、患者を取り巻く環境は大きく変化した。それに伴い看護教育の学習環境も変化した。従来の「見て、体験し学ぶ」という臨地実習が全くできない状況になった。さらに、就職先

選択の要因となる、対面での施設見学や病院説明会、インターンシップ、施設職員による就職説明や合同就職説明会などの開催が中止となった。先行研究にもある、重要な選択要因の「病院による看護師確保活動への参加とともに実習病院での指導体験」(中村他・2017)⁵⁾や「その病院の所在地と生まれ育った地域の距離が希望に合致してる」(大井他, 2009)²⁾などの就職選択に関する情報が減少したことを考えると、パンフレットや遠隔による病院紹介、画面での病院概要の紹介と福利厚生や院内教育制度、相談サポート体制など一般的情報の提供にとどまり、臨床看護への具体的なイメージができづらい状況にある。さらには、選択決定する学生も自分の興味関心のある部分や少ない情報から就職先を選択、決定しなければならない状況になっていると考える。

今回の調査結果では、1期生から12期生まで道内就職者が多いという就職先選択状況に変化は見られなかった。しかし、1期生から10期生と11・12期生の就職先選択の状況を見ると、道外への就職者数が11・12期生の方が減少傾向にある。さらに、旭川実習施設への就職者数が増加していることがわかる。この変化は、COVID-19による臨地実習から学内実習への変更が大きく影響していると言いき難い。が、臨地実習に行けなくなる事での選択要因が少なくなり、これまでの就職者達からの話しや関わりがあった施設に関する数少ない情報のみで、就職先を選択しなければならない現状が影響しているのではないかと推察する。

しかし、これら選択要因の検討には、学生からの声を聴いておらず、明言はできないし、データも2年分と少ない。さらには、就職先選択とCOVID-19の臨地実習の関係、影響に関する研究は大変に少ない。いまだwithコロナの時代にあって教育や就職への影響を考えるのは時期尚早なのかもしれない。しかし、このような臨地実習での学びが保証されない時代だからこそ、継続した調査や学生の声を含めたデータ分析が必要となると考える。

就職先選定の先行研究の中で小葉ら(2018)は「新卒看護職の離職率は7%台で推移し、その理由に就職前に考えていた仕事と実際の仕事のギャップに悩み退職に結びついている」と就職先選択時の決定要件の重要さと判断能力と自分の能力の乖離に不安を感じている、現代若者の精神的未熟さを挙げている。さらに続けて、「教育機関として、学生時代に適切な就職先選定ができるための支援体制が必要で、さらには看護師としての職業的アイデンティティへの支援、対処方法な

どの準備教育が必要である」（小葉他，2018）³⁾と基礎教育の準備性を挙げている。

人の生活や人生，価値，人権と尊厳のある，生きた人間であることを学ぶ場が「臨地実習」であり，教えるのは「対象者・患者と家族，先輩看護師たち」である。今回の調査からは，COVID-19の看護学実習への影響と就職先選択の関係を検討するには至らなかったが，まだまだ続くであろう「ウィズコロナ時代」の臨地実習への対策，そして個人に合った適切な就職先の選択支援を考え工夫していくことが看護教育にとって必要なことであると考えられる。

ス感染症の発生にともなう医療関係職種等の各学校，養成所及び養成施設などの対応について，令和2年2月28日
7. 一般社団法人日本看護系大学協議会 看護学教育質向上委員会：2020年度 COVID-19に伴う看護学実習への影響調査結果。【調査A】【調査B】，2020. 12

VI. おわりに

現代の学生は，感覚体験の中で成長し，他者との交流の希薄さの中での精神的未熟さゆえの配慮の不足など職業的アイデンティティやストレスマネジメントの未熟性があると言われている。学生たちにとって，学内臨地実習は「百聞は一見に如かず」の重要な体験と学びになる。次年度は，今回の調査結果をもとに，学生からの就職決定に関する声を調査し，まとめ，今後の教育，就職支援に生かし，さらに知識と実践力のある学生を育成し卒業させることを約束しながら調査結果報告とする。

最後に，資料を提供して下さった，キャリア支援課の担当職員に感謝申し上げます。

引用文献

1. 大池真樹，鈴木祐子，大槻久美，村上大介：COVID-19下での看護学実習における学習活動の実態，－自己評価尺度と質問紙を用いた調査結果－，東北文化学園大学看護学科紀要，11（1），1-9，2022
2. 大井千鶴，舟島なをみ，亀岡智美：看護基礎教育課程に在籍する学生の就職先選定に関する研究，－病院に1年以上就業を継続できた看護師を対象として－，看護教育学研究，18（1），7-20，2009
3. 小葉祐子，奥宮暁子，田中博子，野中史子，岡潤子による共著：看護学生の就職先選択の傾向と特徴－初年度卒業生の就職先選定に着目して－，帝京科学大学紀要，14，250，2018
4. 田辺幸子，水田真由美：看護系大学生の看護職志望の程度が高まる要因からの教育的支援の検討，日本医学看護学教育学会誌，30（2），34-43，2021
5. 中村仁志，丹佳子，太田友子，縄田真澄，松原育江恵，安村真由美，他8名による共著：看護師の実習指導が就職選択に与える影響，山口県立大学学術情報，10，29-37，2017
6. 文部科学省・厚生労働省 事務連絡：新型コロナウイルス